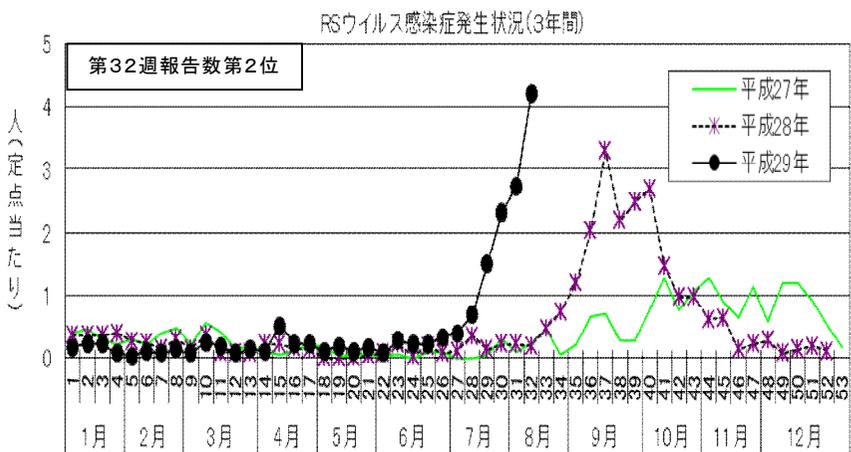
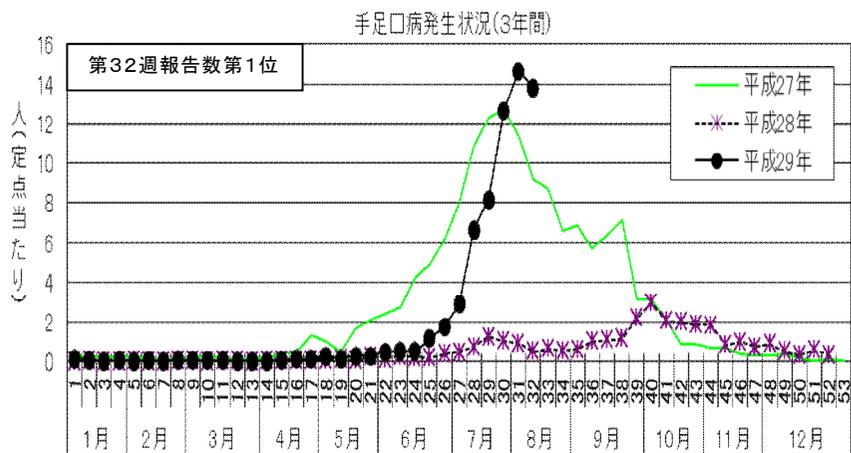


# 今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

平成29年8月7日（月）～平成29年8月13日（日）〔平成29年第32週〕の感染症発生状況

第32週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1)手足口病 2)RSウイルス感染症 3)ヘルパンギーナでした。  
 手足口病の定点当たり患者報告数は13.83人と前週（14.65人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。  
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は4.20人と前週（2.73人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。  
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.54人と前週（4.73人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。



## 腸管出血性大腸菌感染症が急増しています！

腸管出血性大腸菌感染症は、病原性大腸菌（血清型O157、O26など）に感染することにより、腹痛や下痢などの症状を呈する感染症です。

現在、全国的に腸管出血性大腸菌感染症の患者報告数が増加しており、施設などでの集団発生もみられます。市内においても7月以降、毎週患者が発生しており、第31週（7月31日～8月6日）以降、報告数が急増しています。

例年、7月～9月は腸管出血性大腸菌感染症の流行時期ですので、予防対策を徹底し、感染を防ぎましょう。

### 腸管出血性大腸菌感染症とは？

#### 【感染経路】

- ・菌に汚染された食品などによる経口感染
- ・患者の便を介した二次感染  
（※わずか2～9個程度の菌だけでも感染することがあります。）

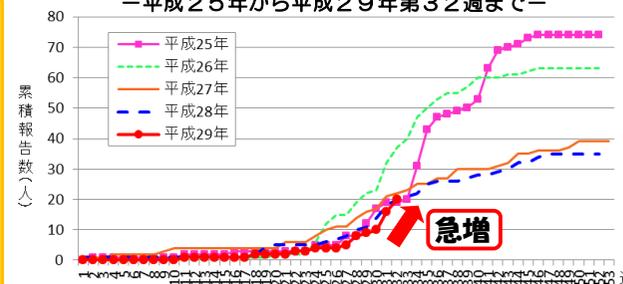
#### 【潜伏期間】

2～14日（平均3～5日）

#### 【主な症状】

- ・激しい腹痛や頻回の水様性下痢、血便  
※無症状のこともあります。子どもや高齢者では、溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症等の重症合併症を起こしやすいといわれています。
- 激しい腹痛や血便がある場合には、直ちに医療機関を受診しましょう。**

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症累積報告数  
 —平成25年から平成29年第32週まで—



#### ＜予防対策＞

- ・生肉または加熱不十分な肉を食べない。  
（加熱は75℃で1分間以上）
- ・生野菜などはよく洗う。
- ・調理前、食事の前にはしっかり手を洗う。

